

共助のススメ

—— 災害ボランティア活動をしてみませんか？ ——



自助・公助に加えて 共助という大切な支え

近年、「激甚災害」といわれる大規模な自然災害が増加しています。災害が発生した場合、自分で自分の身を守る「自助」、役場などの公的機関による支援「公助」だけでは、どうしても災害対応に限界があります。そこで活躍するのが、地域コミュニティによる互助や他市町村からのボランティアによる「共助」です。熊本地震の際、ボランティアのお世話になった人も多いと思います。今度はあなたがボランティア活動をしてみませんか？

災害ボランティアの歴史

平成7年(1995年)に発生した「阪神・淡路大震災」は、(当時)戦後最大の大規模災害となり、地方自治体などによる災害対応だけでは、どうしても限界がありました。そこで活躍したのが、全国からボランティアとして被災地に駆け付けた人たちでした。

ボランティアたちは、食料・物資配給、高齢者などの安否確認やその後のケア、避難所運営、引越しの手伝いなどを行い、被災地の復旧・復興に力を発揮しました。この時のボランティアは、特に特技や資格を持っていない学生や会社員などが大部分で、ボランティア活動が初めてという人も多くいたようです。そのことから同年は、「ボランティア元年」ともいわれています。

その後も、平成23年に発生した東日本大震災や平成30年の西日本豪雨、そして平成28年熊本地震でも多くの災害ボランティアが被災地で、大きな役割を果たしています。